中央陸運 株式会社
DX宣言書

2026年10月21日
中央陸運 株式会社
代表取締役 関根 研一

❑ 経営理念

安全を第一とし、お客様が安心できる高品質な輸送サービスを提供する

❑ DXビジョン（2～3年後にありたい姿）

デジタル技術を活用して業務の効率化と標準化を進めることで、安全で高品質な輸送サービスを提供するとともに、従業員一人ひとりが働きやすく、安心して活躍できる会社を目指します

❑ DX戦略・施策

➢ フェーズ1（現在 ～ 2027年10月）

戦略　「業務課題の可視化とDX推進基盤の整備」

施策
- 非効率な業務を把握するため、運行管理・伝票処理業務等の作業工程および業務負担を可視化
- 業務の属人化を解消するため、特定の担当者に依存している業務の棚卸しを実施
- 紙を中心とした業務を見直すため、帳票類の利用実態を把握し、電子化できる業務や帳票を選定
- DX施策を継続的に推進するため、取組テーマと実施計画を策定し、推進体制を整備

➢ フェーズ2（2027年11月 ～ 2028年10月）

戦略　「業務プロセスの改善と標準化の推進」

施策
- 可視化した業務実態を踏まえ、運行管理・伝票処理業務等の作業工程を見直し、非効率な業務を改善
- 運行管理業務の効率化を図るため、自動点呼システムをはじめとするデジタルツールの活用を推進
- 業務品質の均一化を図るため、運行管理・経理業務の作業手順を標準化
- 円滑な業務引継ぎを実現するため、業務マニュアルおよび引継ぎ資料を整備

➢ フェーズ3（2028年11月 ～ 2029年10月）

戦略　「継続的な業務改善文化の定着と組織力向上」

施策
- 継続的な業務改善を進めるため、改善事例を共有するとともに改善提案制度を構築
- 将来の人手不足や世代交代に備えるため、業務知識およびノウハウを継承する仕組みを構築
- デジタル活用の定着を図るため、従業員向け研修の実施および継続的なフォロー体制を整備
- 生産性と業務品質の向上を図るため、DX施策の効果検証と継続的な改善活動を実施

❑ DX推進体制

- 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

❑ DX推進目標

- 自動点呼システム利用率　　：100%（～2028年10月）
- 紙の使用量削減率　　：2026年度比 50%（～2028年10月）

第四北越銀行